北海道豪雪過疎地域における広域的除排雪ボランティアシステム構築に関する実践的研究
―4地域で実践した雪はねボランティアツアーの地域間比較―

中前千佳1，小西信義2，堀翔太郎3，原文宏1，伊地知恭右1
1一般社団法人北海道開発技術センター，2北海道大学大学院文学研究科，3北海道大学文学部

◆ 調査の背景

近年，豪雪過疎地域では，急速な高齢化の進行により，住宅周りの除排雪を行う担い手が減少しており，冬期における除雪問題が深刻化している．そこで，都市部に住んでいる学生や企業人を除雪ボランティアとして募り，地域の除雪のお手伝いを担ってもらうという，市町村を跨いだ広域的な除排雪ボランティアシステムの仕組みを構築することを目指して，平成25年冬期に札幌発着型の「雪はねボランティアツアー」を企画した．

◆ 調査の目的

市町村を跨いだ広域的な除排雪ボランティアシステムを持続させるためには，ツアー参加者に本ツアーで訪れた地域にまた行きたいと思ってもらうことが重要となる．そこで，それぞれの地域のツアー行程の違いがツアー参加者の意識にどのような影響を及ぼしたのか，調査を行うため，上記の4地域にそれぞれ除雪ボランティアに参加した人に対し，アンケート調査を行い，今後の除雪ボランティアツアーを実施する上での課題の整理を試みた．

◆ 雪はねボランティアツアーの概要

札幌近郊でボランティアツアーの参加者を募り、4地域、計6回の日帰り雪はねツアーを実施。地域ごとにテーマを設定。全ツアー参加者は190名。

◆岩見沢市美流渡雪はねツアー　～雪はね＆学び～
【日　時】平成24年2月2日(土)、16日(土)、23日(土)
8:30～19:30
【場　所】岩見沢市美流渡地区

◆上富良野雪はねツアー　～雪はね＆地域交流～
【日　時】平成24年2月9日(土) 8:30～21:00
【場　所】上富良野町

◆三笠市弥生雪はねツアー　～がっつり雪はね～
【日　時】平成24年2月10日(土) 8:30～17:00
【場　所】三笠市弥生地区

◆倶知安雪はねツアー　～地元の人と一緒に～
【日　時】平成24年2月10日(土) 8:30～17:00
【場　所】倶知安町

写真　雪はねボランティアツアー募集チラシ

◆ツアー実施主体（推進研究会）発足の背景

H18年 ↓ H24年 ↓ 8月 ↓ H25年

上富良野町
H18年に、北海道開発技術センターが国土交通省都市・地域整備局の「豪雪地域における安心安全な地域づくりにおける調査」の事業の一環として、『除雪ボランティアツアー“雪はね隊”』を実施。その後、H24年まで継続的に実施。

三笠市弥生地区
H24年豪雪の時に、北海道コカ・コーラが中心となって、CSR研究会の北海道銀行、日糧パン、HTBに呼び掛け、企業連携で除雪ボランティアを実施。

岩見沢市美流渡
小西（北海道大学文学研究科）は、H18～H24年の7年間に渡るフィールド調査にて，炭鉱社会としての地域特性・豪雪過疎地域としての地域特性・除排雪活動に見られる地域内互恵性の抽出を行ってきた。

H24年8月　ボランティア活動による広域交流イノベーション推進研究会　発足
それまで独自に実施していた『除雪ボランティア活動』を
H25年の冬から、共同で企画・実施することに

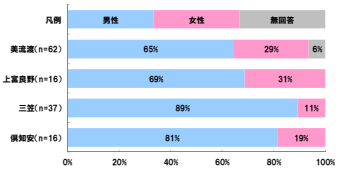
◆ 調査の実施結果

①ツアーの参加状況

◆ツアー参加者数
・ツアーの全参加者（現地集合者も含む）は，190 名の参加者があった．美流渡は，1回目に25名，2回目に27名，3回目に27名，上富良野は20名，三笠は61名，倶知安は30名だった。

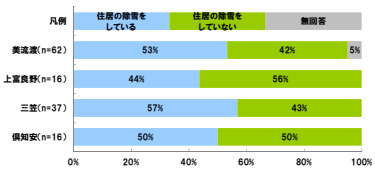
②ツアー参加者（アンケート回答者）の属性

◆三笠と倶知安では男性が8割以上で男性の比率が高く、美流渡と上富良野では女性が約3割
◆年齢は、地域によって様々であった
◆住居の除雪作業の有無については、参加者の約半数が「住居の除雪をしていない」と回答
・日常の生活で除雪をしない人もこの雪はねボランティアツアーに多く参加していた
◆ボランティア経験の有無については、6割以上が「ボランティア経験あり」と回答

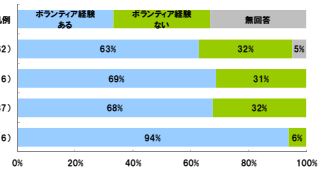


▲ 性　別

▲ 年　齢



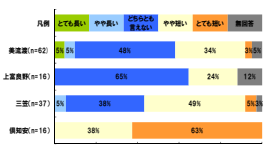
▲ 日頃、自宅の除雪作業をしているか



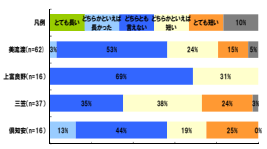
▲ ボランティア経験の有無

③各地域のツアー行程の時間について

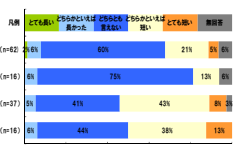
◆雪はねの作業時間について
・上富良野では7割弱，美流渡では約5割の人が「ちょうどいい」と感じていたが，三笠と倶知安については、倶知安では全員，三笠では約5割の人が，作業時間が「短い」と感じていたことが分かった．
◆地域の人との交流時間について
・上富良野では，約7割，美流渡では約5割の人が「ちょうどいい」と感じていたが，倶知安では約4割，三笠では約6割の人が地域の人との交流時間が「短い」と感じていたことが分かった．
◆ボランティア同士の交流時間について
・上富良野では8割弱，美流渡では約6割の人が「ちょうどいい」と感じていたが，倶知安と三笠では約5割の人がボランティア同士の交流時間が「短い」と感じていたことが分かった．



▲ 雪はね作業時間についての感想

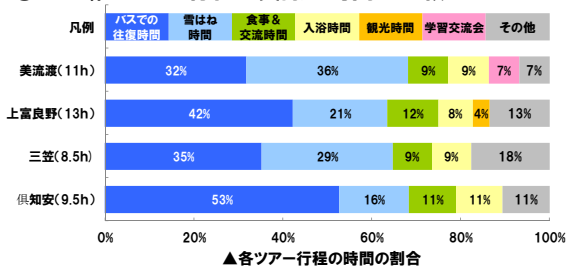


▲地域の人との交流時間についての感想



▲ ボランティア同士の交流時間についての感想

④4地域のツアー行程の実際の時間の比較



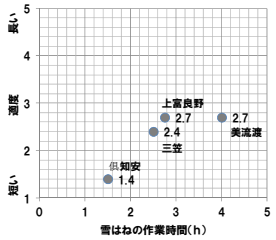
▲各ツアー行程の時間の割合

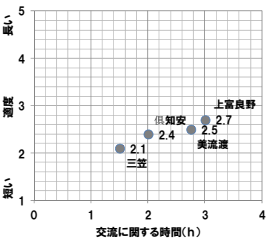
4地域を比較すると，全体のツアー時間は，「上富良野」が13時間と最も長く，次いで，「美流渡」が11時間，「倶知安」が9.5時間，「三笠」が8.5時間の順となっていた．

⑤実際の時間と参加者の評価の関係

		倶知安	三笠	上富良野	美流渡
実際の時間	全体のツアー時間	短い	短い	長い	やや長い
	バスでの移動時間	長い	短い	長い	短い
参加者の評価	雪はねの作業時間	短い	やや短い	適度	適度
	地域の人との交流時間	やや短い	短い	適度	適度
	ボランティア同士の交流時間	短い	短い	適度	適度

◆雪はね作業時間について
・雪はねの作業時間については，作業時間が2.5時間までは増えれば増えるほど評価が「短い」から「適度である」に変化するのに対し，2時間45分以上になるとあまり変化していなかった．
◆交流に関する時間について
・交流に関する時間については，交流時間が1.5時間から3時間まで時間が増えれば増えるほど，評価が「短い」から「適度である」と変化することが分かった．





■結　論
以上の結果から，ツアー参加者が満足するためには雪はね時間と交流時間についてある一定の時間を確保することが重要であるということが分かった．しかし，参加者の満足度を上げるためにツアー全体の時間を長くすればいいかというと，必ずしもそうではない．参加者を募集する段階では，ツアー時間の短い三笠ツアーには，61名もの参加者が集まったのに対し，ツアー時間の長い上富良野ツアーには，20名しか集まらなかった．したがって，それぞれのツアーごとに特徴があることによって，参加者が自分が参加したいと思えるツアーを選択できることも重要なのではないかということがツアー結果から推察された．